

北海道循環資源利用促進協議会

— 使用済み樹脂窓リサイクル WG(ワーキンググループ)発足 —

2026 年 10 月 21 日

塩ビ工業・環境協会

樹脂窓リサイクル検討委員会(本委員会)(委員長:東京大学大学院 清家剛教授、事務局:VEC、(一社)日本サッシ協会、樹脂サッシ工業会)は 2025 年 10 月に北海道循環資源利用促進協議会(循環協)(会長:北海道大学大学院 廣吉直樹教授、事務局:北海道環境生活部循環型社会推進課)に入会し、今年 8 月に使用済み樹脂窓リサイクル WG(本 WG)(座長:東京電機大学 磯部孝行准教授)を設置しました。循環協は未利用循環資源の有効利用・促進および事業化に係る課題について協議し、具体的な取組を促進しています。本 WG では使用済み樹脂窓の効率的な回収方法の要件、拠点候補、有効排出量把握、および原資確保等について道内関係者と協議を重ねることにより、樹脂窓リサイクルの社会実装にむけて活動のステージを上げて行きます。

樹脂窓リサイクル検討委員会(本委員会)は 2025 年 10 月に北海道循環資源利用促進協議会(循環協)に入会し、今年 8 月に使用済み樹脂窓リサイクル WG(本 WG)を発足しました。

循環協では、北海道民の生活や事業活動に伴い排出される未利用循環資源の有効な利用促進に係る課題やその事業化に向けた課題について、排出者や再生利用者、有識者、行政機関などの関係者が協議し、循環型社会の実現に向けた具体的な取組を促進することを目的としています。

循環協の設立は 2003 年 4 月、会員数は 136(有識者(7)、企業・団体・個人(118)、行政関係(11))(2026 年 8 月現在)であり、主として循環資源の調査・研究に関すること、循環資源の有効利用に係る技術および事業化促進に関すること、循環資源の利用拡大に係る普及啓発に関すること、等について協議してきました。

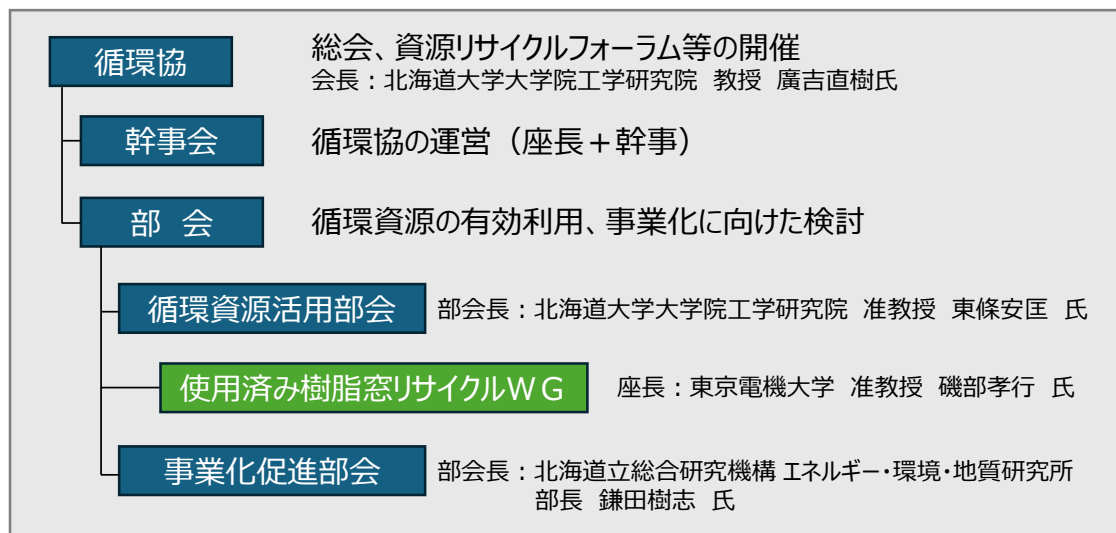
本 WG を含めて現在に至るまでに 12 の WG が設置され、当該活動を通じた事業化等の実績としては、廃石膏ボードのリサイクル事業化、使用済み紙おむつの燃料化、建設廃棄物処理効率化・資源化促進、および使用済み太陽光発電パネルリサイクルスキームの検討等が挙げられます。

循環協には 2 つの部会(循環資源活用部会、事業化促進部会)がありますが、循環資源活用部会の下に本 WG を設置しました。本 WG の体制は現在調整中ですが、座長は東京電機大学の磯部孝行准教授、メンバーは本委員会の他、北海道の廃棄物処理業者や窓関連事業者、研究機関など、オブザーバーとしては経済産業省北海道経済産業局や環境省北海道環境局等に参画をしていただく予定です。

本 WG では、広い道内から安定的に効率的にまとまった量の使用済み樹脂窓を確保して再生原料とすることを主たる目的として、効率的な回収方法の要件整理、拠点となる候補地、有効排出量の把握、および原資確保など、について協議を行い、社会実装

に向けた各種施策の提案を目指します。

WG は概ね四半期ごとに開催し、第 1 回 WG は来年1月(@札幌)を予定しています。



循環協の体制の概要

以上